

清平調詞(その三)

李

白

名花傾国兩相歡  
長得君王笑帶看  
解秋春風無限恨  
沈香亭北欄干倚



楊貴妃

〔作者〕李 白 (七〇一、七六二) 盛唐の詩人。杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しよく)の錦州彰明県青蓮郷(きんしゆうしやうめいけんせいれんきやう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、劍術を習い任侠の徒と交

わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安祿山(あんろくざん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。

〔語釈〕 \*名 花 花 名高く美しい花、ここでは牡丹のこと。 \*傾 國 美人のこと、故事は、漢武帝のとき、李延年が妹

の美を称して「一顧すれば人の城を傾け 再顧すれば人の國を傾く」と歌ったことにもとづく。 \*君 王 玄宗皇帝(げんそうこうてい)。 \*解 釋 ときほぐす、 解消する。 \*春風恨 春愁である。 \*沈香亭 沈香木で造った唐都長安の興慶宮の西北にあつた宮殿中の一小亭で龍池の東にあつた。

〔通釈〕名花牡丹と傾国の美人楊貴妃とが互いに楽しんでゐる。そのありさまを皇帝は笑顔でいつまでも眺めている。皇帝の寵愛(ちやうあい)を得て、楊貴妃は春風の限らない愁いをとほして沈香亭の北の欄干によつて花を賞(め)でている。